

焼却施設の建て替えを巡って

耐用年数が近づいた昭和時代に建設された焼却施設。

東京多摩地域においても、現在、建て替え計画が進行中の施設がいくつもあります。

その中の武蔵野市のクリーンセンターについて進捗状況を報告いただきました。

新クリーンセンターも 市民参加 武蔵野方式で

施設基本計画策定委員会委員 石黒 愛子（東京都武蔵野市）

■ 武蔵野方式とは

2010年2月に始まった策定委員会は、2011年2月28日最終回を迎へ、施設基本計画の提言書をまとめた。内容は下記の5項目である。

- ①ごみ処理施設の基本仕様
- ②施設建設用地の使い方
- ③周辺地域での生活環境調査の基準と具体的な内容
- ④施設の建設・運営方式と整備事業費の概算
- ⑤次世代型環境文化施設としての機能付加の考え方

* 内容の詳細は武蔵野クリーンセンターのホームページ参照



検討するにあたっての委員構成は、建設用地周辺3団体から住民5人、公募市民3人、コミュニティ団体の代表、ごみ問題関係団体代表、商店会関係団体代表と行政代表（環境担当部長）、学識経験者4人（住民推薦及び行政からの指名）の16人である。委員会は公開を原則とし、時には傍聴者発言も許可される武蔵野方式だった。

5項目それぞれを論議する時、現クリーンセンターの建設用地選定での市民参加の経験や26年間クリーンセンターに関わってきた周辺住民の参加する運営協議会の歴史の蓄積が重視された。2ヶ月に1回ごみ排出量や分別、排出ガスのデータなどの監視やチェックを果たしたという実績が買われ、周辺3団体住民の発言がかなり反映している。

ともかく「ここまでやるか」という程の徹底討論が繰り広げられた。専門家として参加された東京23区一部事務組合の工場長の感想によれば、「施設の基本仕様にまで住民が意見・要望を発言するとは考えてもみなかつたことで異例なことだ」とのこと。それだけ市民意識が高いということだろうか。

■ 委員発言と事務局長の協働

委員会が始まった初期は、「なぜ建替えなのか」という発言が委員の中から出された。この疑問には事務局長がデータを示し、時には現状の確認のため工場内を案内するという現場主義が採られた。委員に理解してもらうために丁寧な説明が必要だからである。

委員が納得した上で論議をしないと先に進めない。当然のことを貫くのが武藏野方式といえるかもしれない。

メリットばかりでなくデメリットもオープンで話し合いを重ねることが信頼につながる一番かもしれない。委員から様々な提案や資料も提出され、行政と委員の協働での作業であった。

事例が提案されると、事前学習をしてからその施設に視察にも出かけた。知識を蓄えてからの視察だったので、行った先の自治体担当者は質問攻めに合い、困ったのではなかろうか。各委員と事務局が切磋琢磨しながらの会議は緊張感にあふれ、本音での議論であった。傍聴者から「ここまで深く議論するのか」とあきれられた委員会であった。武藏野市の将来に関わる問題を真剣に徹底的に話し合うのは委員の責務だ、と考える息苦しい集団だったような気がする。

■ 次世代に託すこと

武藏野市の施設の検討ではあったが、常に地球環境の将来を念頭に議論した。

例えば、地球温暖化問題にも想いを馳せ、環境負荷が少ない処理方式を採用することや、テレビ放映で関心を持たれた白煙防止装置は設置せず、発電などにエネルギーを活用すること。将来は脱燃却の方向をめざすこと、施設の分散方式（生ごみやりサイクル施設を市内に分散して、市民一人ひとりにごみを身近に感じてもらうため）や、今後減り続けるだろう「ごみ」を多摩地域の各自治体間により共同で処理する広域処理方式も長期的には視野に入れる必要があるというような次世代に託す内容が示されている。何よりも減量を前提としたコンパクトな施設を考えた。さらに今の煙突を再利用することとか、まだ使用可能な事務棟をエコプラザに転用して使うなどアイデア満載である。

最終処分場問題で悩み、日の出町に負担をかけている多摩地域の自治体が今後十分に話し合い、新たな方式を見出すことも大切との示唆も提言内容に加えられた。

新しい武藏野クリーンセンターは、順調に計画が進めば平成29年には完成する。

迷惑施設と言われ続けたこの施設が、低炭素社会のモデルとして武藏野市の環境まちづくりの期待を担い、さらに多摩地域の中で話題になるようになれば次世代のごみ処理の考え方は変化していくのではないだろうか。

この委員会が心がけてきたのは、情報の出し惜しみはしないこと、プラス面ばかりでなくマイナス面も受け入れ、第3の方法はないのかと常に追求してきたことである。

策定委員会は終了するが、今後の課題は施設周辺整備協議会へ託すことになる。環境文化施設としての機能付加の考え方があるが、次世代の市民に受け渡すのに恥ずかしくないものとなるよう見守りたいと思う。